

指定医師が記入してください

様式第6号（第8条関係）

身体障害者診断書・意見書（肢体不自由障害用）

総括表

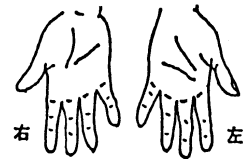
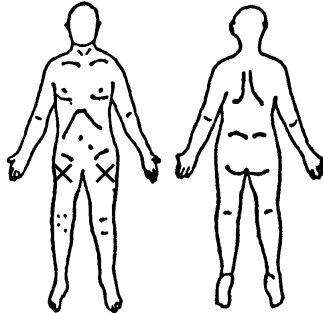
氏 名	滋賀 太郎		大正 昭和 平成 令和	〇年	〇月	〇日	男・女
住 所	滋賀県〇〇市〇〇町〇〇番地						
① 障害名（部位を明記）	両股関節の軽度障害						
② 原因となった 疾病・外傷名	右変形性股関節症 左変形性股関節症		交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災、 自然災害、 疾病 、先天性、その他（ ）				
③ 疾病・外傷発生年月日	令和 〇 年 〇 月 〇 日・場 所						
④ 参考となる経過・現症（エックス線写真および検査所見を含む。）	令和〇年頃から左右股関節の疼痛を自覚。 令和〇年〇月左右人口股関節置換術を施行。 障害固定または障害確定（推定）令和〇年 〇月 〇日						
⑤ 総合所見	左右股関節の筋力低下、可動域制限があり、左右股関節の軽度障害と考える。 右股関節 7級 左股関節 7級 総合6級 〔 障害程度の改善の見込み 無・有 〕 〔 時期： 年 月頃 〕 ←						
⑥ その他参考となる合併症状	上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。 令和〇 年 〇月 〇日 病院または診療所の名称 〇〇〇〇病院 所 在 地 〇〇市〇〇町〇〇番地 診療担当科名 整形外科 医師氏名 近江 太郎						
身体障害者福祉法第15条第3項の意見〔障害程度等級についても参考意見を記入〕 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ○該当する（ 6 級相当） ・該当しない							
注 1 障害名には現在起っている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢まひ、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 2 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、「歯科医師による診断書・意見書」（別様式）を添付してください。 3 障害区分や等級決定のため、滋賀県社会福祉審議会から改めて次頁以降の部分についてお問い合わせする場合があります。							

肢体不自由の状況および所見

1 神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを○で囲み、下記空欄に追加所見記入）

- (1) 感覚障害（下記図示）：なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
 (2) 運動障害（下記図示）：なし・弛緩性まひ・痙攣性まひ・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
 (3) 起因部位：脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
 (4) 排尿・排便機能障害：なし・あり
 (5) 形態異常：なし・頭部・脊椎・四肢・その他

参 考 図 示



×変形 ■切離断 ▨感覚障害 ▨運動障害
 (注) 関係ない部分は記入する必要はありません。

計

上肢長：肩峰→機骨茎状突起

前腕周径：最大周径

測

下肢長：上前腸骨棘→（脛骨）内果

大腿周径：膝蓋骨上縁上10cmの周径（小児等の場合は別記）

上腕周径：最大周径

下腿周径：最大周径

右		左
50.0	上肢長cm	50.0
74.0	下肢長cm	74.0
	上腕周径cm	
	前腕周径cm	
40.0	大腿周径cm	40.0
35.0	下腿周径cm	35.0
法	握力 kg	

2 動作・活動 自立—○ 半介助—△ 全介助又は不能—×、（ ）の中のものを使う時はそれに○をする

かぶりシャツを着て脱ぐ	○	ズボンをはいて脱ぐ（自助具）	○
ワイシャツを着てボタンをとめる	○	靴下を履く [どのような姿勢でもよい]	○
コップで水を飲む	右 ○	寝返りをする	○
	左 ○	いすに腰掛ける	○
顔を洗いタオルでふく	○	洋式便器にすわる	○
ブラッシで歯を磨く（自助具）	右 ○	正座で座る（背もたれ、支え）	○分
	左 ○	あぐらで座る（背もたれ、支え）	○分
タオルを絞る [水をきれる程度]	○	横座りで座る（背もたれ、支え）	○分
背中を洗う	右 ○	足を投げ出して座る（背もたれ、支え）	○分
排せつの後始末をする	右 ○	片足で立つ	右 ○ 左 ○
	左 ○	立ち上がる（手すり、壁、杖、松葉杖、義肢、装具）	○
つまむ [新聞紙が引き抜けない程度]	右 ○	家の中の移動（壁、杖、松葉杖、義肢、装具、車椅子）	○
	左 ○	2階まで階段を昇って降りる（手すり、杖、松葉杖）	昇○ 降○
握る [丸めた週刊誌が引き抜けない程度]	右 ○	屋外での移動（杖、松葉杖、車椅子）	○
	左 ○	公共の乗物を利用する [タクシーを除く]	○
箸で食事をする（スプーン、自助具）	右 ○	注：身体障害者福祉法の等級は機能障害（impairment）のレベルで認定されますので（ ）の中に○がついている場合、原則として自立していないという解釈になります。	
(参考) 利き手	右・左		

3 上肢の状態、歩行能力および起立位の状況（該当するものを○で囲み、□に数値を記入する。）

- (1) 上肢で下げられる重さ（手指でも肘でもよい） 右：正常・（10kg・5kg）以内可能・不能
 左：正常・（10kg・5kg）以内可能・不能
 (2) 歩行能力（補装具あり【器物使用および介助を含む】）： 1000 m ・ 不能
 (3) 歩行能力（補装具なし【器物使用および介助を含まない】）： 1000 m ・ 不能
 (4) 起立位保持（補装具なし【器物使用および介助を含まない】） 右：60 秒 左：60 秒 両下肢：30 分
 (5) 坐位の耐久性：60 分

関節可動域(ROM)と筋力テスト(MMT)(この表は必要な部分を記入)

筋力テスト()		関節可動域	筋力テスト()		関節可動域	筋力テスト()	
180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		() 前屈	後屈() 頸		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	() 左屈	
		() 前屈	後屈() 体幹			() 右屈	
右	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	() 屈曲	() 伸展		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	() 屈曲	
		() 外転	() 内転			() 外転	
		() 外旋	() 内旋			() 外旋	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 回外	回内() 前腕			() 回内	
		() 掌屈	背屈() 手			() 背屈	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
左		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
		() 屈曲	() 伸展			() 屈曲	
180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	(○) 屈曲	(○) 伸展		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180	(○) 屈曲		
	(○) 外転	(○) 内転			(○) 外転		
	(○) 外旋	(○) 内旋			(○) 外旋		
	() 屈曲	() 伸展			() 屈曲		
	() 底屈	背屈() 足			() 背屈		

備考 右股関節の○は筋力4相当 左股関節の○は筋力4相当

※筋力テスト(MMT)が○または×の場合は筋力数値をご記入ください。

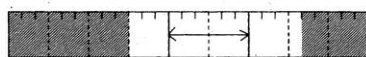
注:

1. 関節可動域は、他動的な可動域を原則とする。
2. 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
3. 関節可動域の図示は、 $\leftarrow$ $\rightarrow$ のように両端に太線をひき、その間に矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線(〰)を引く。
4. 筋力については、表()内に×△○印を記入する。
×印は、筋力が消失または著減(筋力0、1、2該当)
△印は、筋力半減(筋力3該当)

○印は、筋力正常またはやや減(筋力4、5該当)

5. (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。
6. DIP その他手指の対立内外転等の表示は必要に応じて備考欄を用いる。
7. 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

(×) 伸展  屈曲(△)